

さいたま市障害者社会参加推進センターだより



ぱらネット

第8号



企画プログラムの1番バッター「たまびよ隊」の吹奏楽。楽しい雰囲気が会場いっぱいにあふれました。

平成18年度「障害者週間」市民の集い 障害のある人もない人も共に生きる社会を目指して！

さいたま市の今年度の「障害者週間」市民の集いは十一月三日の文化の日に、桜区のプラザウエストさくらホールで開催されました。

今までの「つどい」とは少し角度を変えて、楽しく、地域との接点を持つるように、そして、障害者理解が進むようにとの願いを込めた、多彩な催しになりました。

会場が広く、いろいろな制限もクリアできて、ホールの企画の他、念願の授産品販売も、作業所利用者などの作品展示も、障害者団体のアピール展示もできましたが、全体として散漫な感じになり、参加者の問題と共に大きな課題を残してしまいました。

むづむづとっしょに楽しみたい

ママさんブラス埼玉たまびよ隊 笠松 典子

私たち「埼玉たまびよ隊」は埼玉県初のママさんブラスバンドです。現在の所属メンバーは90名ほどで、月に3回ほどさいたま市内のコミュニティセンターにて練習を行っています。

メンバーはみな学生時代に吹奏楽部などで活動していたものですが、結婚や出産などでなかなか週末や夜に練習を行う一般の楽団に入ることが難しく、仕方なく自分の趣味を諦めていたという状況でした。

それならば「日中に子連れ参加OKのバンドにすればいいのでは？」と4年ほど前に全国初のママさんブラスバンド「仙台びよびよ隊」が発足したのをきっかけに、埼玉でも2004年9月にたまびよ隊が発足しました。ネットでの呼びかけを中心

赤ちゃんをおんぶしたお母さんもいて、ほんとに楽しかった。



にあつという間に人数も増え、また私たちの活動に賛同してくださる指導の先生方にも恵まれ、今では子供たちも含めるととても賑やかな大所帯のバンド

となりました。

子育て中でも自分のできる範囲で音楽を楽しみたいという人がこれほどたくさんいたことにビックリしましたが、今ではこのママさんブラスの輪が全国に広がり次々と新しいバンドが産声をあげています。

2005年10月に行われた「バリアフリーフェスティバ

ル」にて演奏をさせていただいたご縁があり、今回行われた「障害者週間」市民の集いでも演奏をする機会に恵まれ、たくさんの方に私たちの演奏を聞いていただくことができたことをこの場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

練習でもこういった演奏の場でも常に子供たちと一緒に私たちにどうしても活動の限界があるのは事実です。演奏中に「ママ、おしっこ」と言われ抜け出さなければいけない時もあり、どうしてもぐずってしまったり、どうしてもぐずってしまったり、どうしていいかわからないなどという場面もあります。

音楽的にはまだまだの部分が多いのですが「今の私たちにできる範囲で楽しく演奏しよう！」と前向きに参加する仲間ばかりで私自身も親子共々楽しんで活動に参加しています。

音楽というのは不思議なもので、まだ言葉のわからない子供たちもリズムののって楽しんで

施設の人たちと和やかに

桜区会 高田 嘉子

私たちの会は会員十名の小さな会ですが、毎週土曜日には障害者の入所施設「しびらき」の地域交流室をお借りして各種講習会を開いています。日本舞踊もそこで習い、施設の行事にも参加してきました。

夏祭りの季節になって、施設長さんからしびらきの利用者に盆踊りを教えてもらえないかといわれたのがきっかけで、利用者との交流が始まりました。利用者さんについては、最初近寄りやすい気がしましたが、接してみると挨拶もしてくれず、できることもたくさんあるし、今は中学生くらい感覚で付き合っています。

今回、市民の集いに出演のお話をいただいたとき、「しびらき」の人たちといっしょに踊る



みんないっしょに「ズンドコ、ズンドコ」

場面を作りたいと思いました。

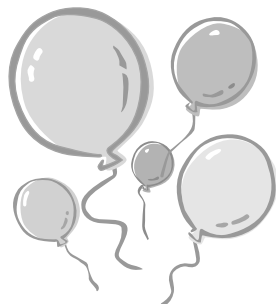
当日はまず、私たちの日本舞踊を詩吟舞・創作舞踊・男舞・女舞等、先生と共に四曲踊らせていただきました。この様な会ではあまり日本舞踊がなかったせいか、参加者から喜んでいただきました。

続いて「しびらき」の入居者による盆踊り「きよしのズンドコ」

「コ節」になり、男女二十名で夏からの練習を生かして楽しく踊りました。施設長さんは心配されていましたが、規律正しく楽しく、無事終えることが出来て、感無量です。

会場が広くてよかったのですが、客席の参加者が少なかったのがとても残念でした。私たちもあちこちの自治会にポスターをはって声かけをしたのですが、文化の日で行事が多かったせいもあるかと思いました。団体紹介展示や授産品の販売には人が集まりました。

この集いに参加下さった皆様ありがとうございました。



人はみな役者

今年の「障害者週間」市民の集いについては、参加者のアンケートをみても、「楽しかった」「たまぴよ隊の吹奏楽が印象に残った」「当事者インタビューに勇気付けられた」など、結構評判は良く、私自身も、カメラ撮影の合間に垣間見た印象では、「まあまあ企画だったかなあ」との感想を持ったのでした。

しかし、大きく立派な会場の割には、観客は少なく、市障協の十一月理事会等でも、会場、駐車場、開催時間、運営・案内方法等を巡って多くの意見・批判が相次ぎました。

さて、シエークスピアは「この世は舞台、人はみな役者」と言っています。舞台への出場者のみならず、全役員、そして黒子たるべき企画委員、さらには観客も、当日欠席した当事者とその家族も、地域住民もみな役者であるべきとイメージすることで、今後のあり方にひとつのヒントが得られるように思うのですが…。

企画委員 川島哲也

もっとたくさんの人と楽しみたかった！

さいたま市難聴者・中途失聴者協会 鈴木亜妃子

十一月三日(祝)「障害者週間」

市民の集いをプラザウエスト(桜区)で開催しました。

私はその中で「当事者インタビュー」というコーナーのインタビューを受けました。インタビューをしてくださったのは司会者の岩本美紀子さんでした。

インタビューを受けるためには、インタビューアーに予め情報を伝えておかなければなりません。これがなかなかうまく行かず、事務局の方も大変だった



マイクの右 鈴木さん、左 岩本さん

と思います。間に入ってご苦労をおかけした川原さんは次のようなことを書いてお渡ししたそうです。

鈴木亜妃子さんのこと

生まれたときから聴覚に障害があることはわかっていたので、両親の方針で小、中、高校とも普通校で過ごしました。小、中学校のときは授業はほとんど聞こえず、とてもつらかったです。

両親も聴覚に問題があり、よい状態ではなかったようです。

高校に入ってからようやく友達ができました。手話を覚え始めたのは社会人になってからです。現在「ことば」を勉強していて、検定試験を去年、今年と受けて、要約筆者に対して誤字などをすぐ指摘する力を付けてきました。

二十代のはじめに結婚して、中学一年の娘がいます。仕事は

大宮のM生命で採用され、早くて正確、効率的に仕事をするそうです。

ご主人も難聴ですが、会社員として働いています。

さて、会場においでくださったみなさん、こんな私の生活のうちどれくらいのお話がお伝えできたでしょうか。聴覚障害があるということによるコミュニケーションの不十分さをわかっていただけたでしょうか。

残念なのは、障害者週間市民の集いなのに、関係者が大勢いて、参加者が少なかったことでした。PRするのが遅かったかもしれないですね。

聴覚障害者にとって、情報保障は手話通訳・要約筆記があるのに関わらず、参加者はたった四人でした。これは、勿体ないです。

来年こそはきちんと計画して早目にPRして参加者が大勢来るように努力し、一般の方に要約筆記の事を知って貰いたいと思います。

反省は多々ですが

障害者週間の新たな行事として市民の集い第一回は、一般人たちをいかに呼び込めるかという決意の下、企画委員会を立ち上げ四百名という大きな会場を押さえ出発したのでした。

場所が桜区ということもあり、地元の福祉施設、自治会、舞踊団体等、多くの一般の方の協力を得られたことは大変良かったと思います。

反面、準備不足から、地域の方たちとの意思の疎通が上手く行かず理解していただくのに戸惑う部分もありましたが、少なくとも、桜区の地域には第一歩を踏み出したと感じております。

四百名の会場での行事にしては実行委員も少人数で、打ち合わせも少なかつたと思いましたが。

当日のお手伝いの方たちにもやはり指示が行き届かずスムーズに機能できなかった事等、反省点ばかりですが、新しい事へ挑戦した満足感もありました。

企画委員 加藤シゲヨ

「障害者週間」
市民の集いを
ふりかえって

楽しくて目的が達成できれば 何もいうことはないけれど...

十二月九日は障害者の日です。これは、国連で障害者の権利宣言が採択された日を記念して定められたのですが、この日を中心にして障害者の日記念事業が各地で行われています。

さいたま市では、三年前から障害者協議会が委託を受けて力を入れていますが、それまでの行政主導の企画と比べれば見違えるくらいよくなっているとはいえ、どうやってもいまいちの感はぬぐえません。

どこに原因があるのか、今年の「障害者週間」市民の集いをふりかえって考えてみたいと思います。

【会場の問題】

さいたま市は百万人を超える人口を抱える市です。県域のように、その年に担当した市が中



セレモニーの中で「心の輪を広げる体験作文」小学生の部で表彰を受ける高瀬朱里さん

心になって考えるのと違ってどこを会場にしても「遠い」という人が出てきます。また、会場によって、音楽だめ、物を売ってはだめ、駐車場がない、車椅子トイレが一つしかない、利用料が高いなど、使えない条件がいっぱいなのです。

企画の問題
企画の中心にあるのは障害のある人の抱える問題を一般市民の方々に伝えていくということです。問題を共有して共に支えあつていくという感覚を育てたいということですが、障害のある人たちだって、歌ったり踊ったりするのが大好きという人がたくさんいます。障害のある人で、芸術的な活動をしている方たちに来ていただけないかと思っています。

もう一つは、直接障害のある人や家族の話聞いていただくことです。大変さを理解し、でも楽しく生きているんだというのをわかって

市民のみなさんの
理解を求めて

会長 望月 武

「障害者週間について」

『国民の間に広く障害者の福祉についての関心と理解を深めるとともに、障害者が社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めるため障害者週間を設ける』

障害者週間は十二月三日から十二月九日までの一週間とする
国及び地方公共団体は、障害者週間の趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない』

以上は障害者基本法第七条に明記されている条文です。

昨年暮れ国連総会で障害者の権利条約も採択されました。多くの市民の皆さんに障害者への関心と理解を深めていただく絶好の場がこの障害者週間記念事業です。



10月に行なわれた全国障害者スポーツ大会参加の選手から報告がありました

「予算の問題」
 そう思っても予算がありません。専門的
 ん、人手もありません。専門的
 中途障害の問題など、明日は
 わが身かもしれない。でも障害
 を持って生きるということがど
 んなことか、知っていたきた
 いのです。

な技術もありません。

「思い」を具現化するには足
 りないものだらけです。日々別
 の仕事をしながら片手間に取り
 組んだら、満足のいくものは無
 理と思いつながら取り組んでい
 るのはつらいものがあります。

集中して取り組んでくれる人
 が必要です。それをプロとい
 います。

何でも効率・効果で評価する
 このごろの行政事情からいつた
 ら、四百人のホールに最大時で
 百二十人余りと聞いたなら、来年
 の予算は危ないかもしれません。
 でも、だから、やらなければ
 いけないのではないでしょ
 うか。ホールいっぱいにする企画
 と予算をひっさげて！

実行委員長 浅輪田鶴子



「障害者週間」市民の集い アンケート集計 (抜粋)

★回答数 24

(設問) 4. イベントで特に印象に残ったものは？

- たまびよ隊の吹奏楽 18
- コールファミリーのコーラス 9
- 桜区会の日本舞踊 5
- 畑中亀甲連の阿波踊り 4
- 当事者インタビュー 8 体験コーナー 2
- 作品展 3 団体展示 1

【たまびよ隊】

- ・演奏がうまい
- ・子供たちが元気でかわいい
- ・すばらしかった
- ・子育てをしながら、吹奏楽という趣味を持つお母さんたちが良かった
- ・親子が一緒というのが良かった
- ・小さい子が、障害者と会うのが普通であると思えるようになると思う

【コールファミリー】

- ・盲導犬がかわかった

【桜区会の日本舞踊】

- ・障害者も出演することができてよかった

1階で行なわれた販売は大盛況でした。



【当事者インタビュー】

- ・家族として当事者の話は勇気付けられた
- ・インタビューの最中、どれだけ健常者がいたか殆んど障害者かその家族だと思いました
- ・司会者の方の聞き方が上手で、当事者もよく話せていた。もう少し話したいことがあるように感じた
- ・聞いている人が少なすぎる。障害者週間の真の目的は、市民に当事者の生の声、考えていることをまず知ってもらうことだ

【体験コーナー】

- ・織り、ローソク作りなどお土産までもらってとても楽しかった
- ・丁寧に指導してもらい、とても楽しかった

ゴルフプレーの再開を夢見て

M・S

私が根治療法のない難病パーキンソン病 (Parkinson Disease PDと略称) と一生のお付き合いをすることとなったのは今から十年ほど前のことです。

一九九六年十二月(当時四十九才) 国際会議出席のため香港出張、そこで今までに経験したことのない体調の異変に遭遇、風邪でもひいたものとホテルで休養、しかし次の日に回復はせず、さらに一日置いて帰国、市立の病院へ、この症状と主治医となる専門科の医師をお聞き

し、神経内科という初めて診察を受ける科での受診となりました。

早速検査に回され、所見を伺ったところ、もう少し経過を見て判断しましょうといわれました。脳内神経細胞、脳内血管のどこかに異常があることが考えられます。その後薬を何回か変えて、出た答えがパーキンソン病でした。

『それ何!』最初の反応でした。投薬がPDの症状を抑制する効果が認められれば、疾患はPDの可能性が大きい。さらに治療法のない難病で一生薬の世話になるといのです。発症より六年を経過した二〇

〇三年四月末日、苦渋の決断、定年を四年余り早く会社人生にピリオドを打つこととしました。

進行性疾患であり、今後はQOLを維持できるような薬物治療を続けながらリハビリに務め、さらにゆったりとしたマイペースながら本会を支援して行きたいと思えます。

臨時ニュースです!

NHKの十二月十一日(火)のニュース報道によれば、特定疾患医療費支給制度による予算削減を目的として、患者の多い難病については制度適用を除外し、同疾患への公費支給は原則として無しとすると。

ところがその4日後には同制度は来年度も変更はしない、潰瘍性大腸炎とパーキンソン病の制度適用除外は白紙に戻すということになりました。

いったいこの四日間は何があったのでしょうか、今後調査してゆきたいと思えます。

事務局だより

署名請願運動のことがあって、しばらくの間、理事会の準備がバタバタで、資料作りもやっと間に合うという状況でした。そして久しぶりに一月の理事会資料は早く作ることができて、テープと点訳の資料が作れそうです。といっても、私にはその技術はありませんので、その技術をお持ちのボランティアの方によっていただいています。ひさしぶりの依頼に、気持ちよく引き受けてくださいました。「どうしたのかなと思ってたよ」と言われました。そんな皆さんは、本当にいいお顔をされているといつも思います。

このような方たちが増えると、生きやすい世の中になるのになあと、最近の子供たちの悲しい事件の報道を見ると思うこの頃です。(U)

リレートーク

わたしはわたし



M. Sさんプロフィール

大手建築会社に勤務していた1級建築士。構造設計を手がけていたということです。埼玉県パーキンソン病友の会副会長。さいたま市障害者協議会副会長

発行

さいたま市障害者社会参加推進センター

〒333-0801

さいたま市大宮区土手町

一〇二二二二一

大宮ふれあい福祉センター4F

TEL/FAX

〇四八六五三七二七一

発行人

望月

編集人

浅輪 田鶴子